

宿泊事業者部会での意見交換概要

参考資料2

【栗原圏域】圏域観光に対する御意見

- 観光に来て地域にお金を落としてくれる層は60～70代が多い。コロナ禍以降、栗駒山の登山客の入浴の利用も減り、消費しなくなっている印象がある。
- 栗原地域はタクシーが少なく、夕方・夜は移動が困難である。
- 海外からの宿泊客には、宮城県内の各地域の観光情報が知られておらず、行くための交通手段も分からぬ。

(1) 観光地域づくりを行う地域への支援	(2) 仙台からの送客・周遊性向上のための二次交通対策
<ul style="list-style-type: none">○宿泊客向けに飲食店等の情報が掲載された「まち歩きマップ」等があると、観光消費額の増加にもつながるのでは。○登山客向けに物販イベント等を実施する際は、お金を落としてもらうための仕組みや工夫が必要。○栗駒山麓ジオパークと周辺各地のジオパークが連携した広域周遊、広域観光ができると面白い。○仕事で宿泊した方が、後日、余暇で家族と過ごす場所として宮城県を選んでもらう動機の一つとなるポイント付与の取組があっても良い。○「リトリート」といわれる心の癒しにつながる滞在など、新しい分野や隠れたニーズについて探るのもよいのではないか。○地域における宿泊税用事業については、栗原市主体の事業はもちろんのこと、他圏域の成功事例などを栗原地域で展開できるような、県の俯瞰的な視点が反映される施策を取り入れてほしい。また、この場に参加できない事業者の方にも広く平等に分配される施策を望む。○各業種の観光関係者をとりまとめ、方向性付ができるような地域観光の舵取り役を担う体制整備が進むと良い。事業を動かしていく人材も必要であり、その強化に向けては、民間の負担を減らし公共的な予算を入れてもらいたい。○宿泊・交通事業者など関係者がアイディアや強味を活かし、栗原圏域全体の観光振興をインバウンドも含め中長期的に考えられる組織として、宿泊税を活用してDMOをつくり、国の補助事業などにもトライできる体制になるとよい。○地域の宿泊事業者が集まる場は意外と少ないので、今回のような場を通じて情報交換できることは非常に参考になる。	<ul style="list-style-type: none">○JRと高速乗合バス、市民バス等の地域内を運行する公共交通の乗り継ぎ時刻や場所、運賃等について、利用者が出発地と目的地を入力するだけで容易に検索できる、栗原版「NAVITIME」のような乗り替え案内サイトが構築されると良い。○仙台＝栗原間の高速乗合バスを活用した送迎付きの宿泊プランが好评で、一定の集客につながっている。○オンシーズンに仙台空港からいわかがみ平への直通の高速乗合バスがあれば、インバウンドも含め、ダイレクトに来てもらえる。○ライドシェアや、JRくりこま高原駅から温泉旅館までの移送において、タクシー事業者に補助金が入る仕組みを取り入れてほしい。○個人旅行が中心になってきているので、複数の宿泊施設を経由して観光に回るようなオプショナルツアー（小規模な観光プラン）を連携して作れると良い。○宿泊事業者が送迎用に使う車両の購入に活用できる補助事業がほしい。○宿泊事業者が自分たちのできる範囲で、送迎用の車を使って観光の依頼に対応でき、それに対する補助も受けられるような仕組みがあるとよい。○宿泊施設共同による送迎運行はあったら良いと思うが、最初からシステム化するのは難しいため、まず実証を通じて利用者のニーズを把握してはどうか。

宿泊事業者部会での意見交換概要

(3) 快適な旅行環境のための受入環境整備	(4) ターゲットを意識した効果的なプロモーションの展開
<ul style="list-style-type: none">○都市部の学生など、地域外の人材を活用して旅館業務を手伝ってもらう際、交通費等の補助があるとありがたい。 参加した学生等は地域のファンとなり、関係人口増大にもつながっている。○宿泊業界の人手不足解消策として、都市部の学生など地域外の人材と事業者をウェブ上でマッチングする「おてつたび」のような手段を使うことで、人材不足の解消につながる。更に、若年層の来訪促進や関係人口の創出、移住や就職への繋がりも期待できるのではないか。○人材育成について、宿泊事業やバス事業ともに働き手の年齢層が高く、将来的な担い手となる若い世代にフォーカスを当てた人材確保・人材育成が必要。	<ul style="list-style-type: none">○栗駒山は紅葉の時期の客が非常に多いが、新緑の時期も素晴らしいので、そこをPRすることで年に複数回来ていただけるようになるのでは。○インバウンド向けに、仙台空港で栗原地域をPRするイベントができると良い。○新幹線で駅に着いてから地域の観光スポットを回る旅の一連の流れを、移動手段を含めて紹介する情報発信があれば良い。○宮城・栗原の認知度は低いので、海外（特に台湾など）で開催される旅行博への積極的な参加や、SNSの活用などを通じて認知度を高めていく必要がある。

【参考】栗原圏域の観光の現状と課題

(1) 観光客入込数

栗原圏域の入込数は、対前年比7%増加の177万人

(単位:万人)

	H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比	R5年比
仙南圏域	718	670	708	98.6%	105.7%
仙台圏域	3,679	3,936	4,073	110.7%	103.5%
大崎圏域	941	809	847	90.0%	104.7%
栗原圏域	190	166	177	93.2%	106.6%
登米圏域	347	281	293	84.4%	104.3%
石巻圏域	550	637	639	116.2%	100.3%
気仙沼・本吉圏域	371	324	314	84.6%	96.9%
県全体	6,796	6,824	7,051	103.8%	103.3%

(2) 宿泊観光客数

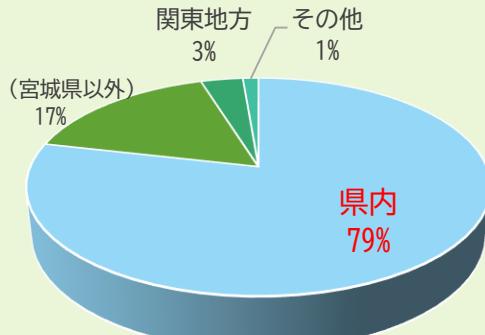
栗原圏域の宿泊観光客数は、前年と同水準の約9万人泊

(単位:万人泊)

	H31 (R1)	R5	R6	H31(R1)年比	R5年比
仙南圏域	71	63	63	88.7%	100.0%
仙台圏域	742	727	770	103.8%	105.9%
大崎圏域	77	54	58	75.3%	107.4%
栗原圏域	11	9	9	81.8%	100.0%
登米圏域	9	8	9	100.0%	112.5%
石巻圏域	38	42	38	100.0%	90.5%
気仙沼・本吉圏域	42	40	42	100.0%	105.0%
県全体	989	943	988	99.9%	104.8%

(3) 旅行客の居住地エリア

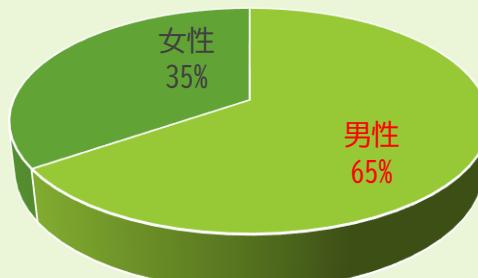
県内客が約8割を占め、宮城県を含む東北地方では96%を占める。



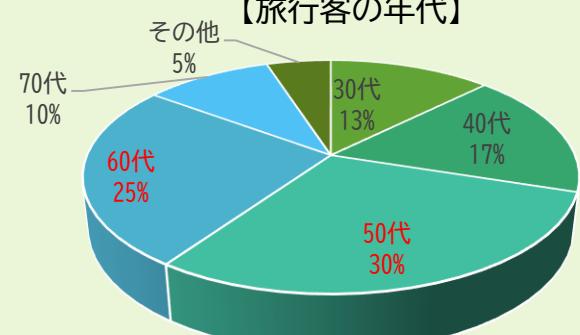
(4) 旅行客の性別・年代

男性が65%を占め、年代別では50代 (30%)、60代 (25%) の割合が高い。

【旅行客の性別】



【旅行客の年代】



【出典】(1)、(2)共に宮城県観光統計概要(R6速報値)。(3)、(4)共に令和6年度観光客実態調査。